

今月のメッセージ（2014年2月）

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

何にもないちゃ！ゼロ作戦

成人式の日、富山第一高校サッカー部は悲願の全国制覇を成し遂げました。後半40分過ぎまで0-2で負けていたのを延長戦の末に逆転した劇的なものでした。普段は謙虚な富山県の方々の秘めた闘志と粘り強さを感じました。

年初のご挨拶では、多くの方から北陸新幹線に関するお話を伺いました。昨年12月から県内での試験走行が始まり、来年3月の開業に向けたカウントダウンも始まりました。街全体がそわそわしてきたような感じがします。

こうした中、富山県は「何にもないちゃ！ゼロ作戦」を始めます。「何にもないちゃ」は、「何にもありません」の富山弁で、「県外の人に富山県の魅力を聞かれた時に、『何にもないちゃ！』と答えるのは止めましょう」という運動です。

確かに、私がお尋ねしても「立山黒部アルペンルートはあるけどねえ・・・」といった答えが多いです。冬の五箇山、春の桜。新緑の曳山に秋の「おわら」。黒部峡谷鉄道の紅葉。魚も豊富で、お酒とお米も美味です。瑞龍寺などの見どころも各地にあります。

「何にもないちゃ」と答えたら、他県の方はそう思い込んでしまう。北陸新幹線開業を契機に県内経済を活性化させようとする時に、謙虚さは少し脇に置いて、決して背伸びをする必要はないけれど、ありのままの富山県の良さをPRしていこう。「何にもないちゃ！ゼロ作戦」に私も賛成です。

先日、旅行業者の方が、「北陸地方で欧米人に最も人気があるスポットは輪島の棚田。地元の人には思いもよらないスポットが人気エリアになるものです」と言っておられました。私のような他県の方が、観光客のような目線で地の風物に触れていくので、地元の方が意外と思うものに強く魅かれ、新たな観光名所の発見に繋がるのかもしれませんが。

当県では「県人会」が盛んです。他県で活躍している富山県出身者の方々が集まって交流する姿は大変羨ましく思います。ただ、「富山県経験者OB会」のような組織もあつたら良いのになあ、と思うことがあります。富山県の魅力を実感を持って語れる人たちに富山県の旬の話題を伝えてPRの輪を広げてもらう、そのような組織が出来たら、いずれ私もお役に立てると思います。

以 上